

教育課程研究指定校事業実施計画書（平成28年度）

－ 研究課題 1 高等学校－

都道府県・指定都市番号	30	都道府県・指定都市名	和歌山県
-------------	----	------------	------

（公立）・私立・国立（○で囲む）

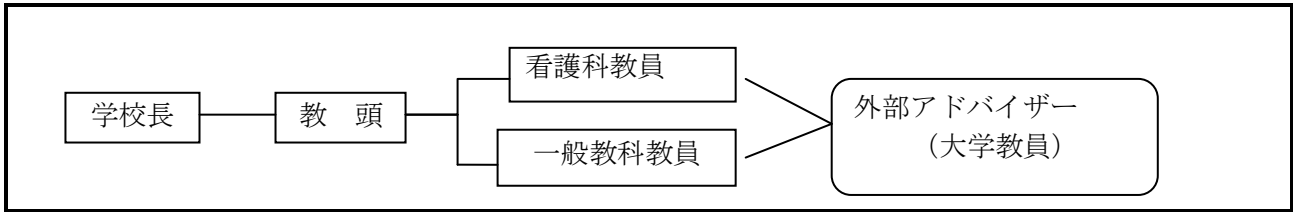
1 研究指定校の概要

ふりがな 学校名	わかやまけんりつくまのこうとうがっこう 和歌山県立熊野高等学校				ふりがな 校長氏名	なつめ やすひろ 夏目 康弘
所在地	〒649-2195 和歌山県西牟婁郡上富田町朝来 670 電話 0739-47-1004 FAX 0739-47-4200 e-mail admin@kumano-h.wakayama-c.ed.jp					
設置する 課程 (H28.4.1 見込)	全日制				(H28.4.1 臨時的任用の者は常勤の者のみ含む) 教員数 66名	
生徒数 (H28.4.1)					[調査研究にかかわる教科等の教員数]	
学科名	1年	2年	3年	4年	計	
総合学科	160	159	192		511	
看護科	37	34	37		108	
専攻科	38	38			76	
特記事項						

2 研究主題等

教科等名	看護	教科課題番号等	1
学校における研究主題	体験や実践的な学習を通して生徒の思考力・判断力・表現力を高める工夫～学生がやる気になる協働学習の工夫とピア評価の充実～		
研究主題設定の理由	本校看護科は5年一貫教育校で、卒業すると生徒は、看護の専門職として医療の現場で活躍することが期待されている。そのため、「社会人基礎力」として、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力が必要である。本校生徒は、素直で情緒豊かであるが、学習面においては、受動的で主体性が乏しい。入学時の意欲を5年間継続することに困難を感じている生徒もいる。また、5年間同じクラスで有りながら、関係が乏しい生徒同士もいる。そのため、協働学習を通して看護職に必要な探求力・コミュニケーション力を育み、自己発信力を高め看護を学ぶ楽しさを得てピアの力を信じ合えるような指導を工夫する。今回の研究では、この取組について検証し、評価を行う。		
研究の内容	平成26年から2年間行った「看護の統合と実践」において、検証・評価した結果ジグソー学習は、知識の定着と思考力を高められる学習方法であると実証。 平成28年度は、「看護の統合と実践」の学習内容の「実践への展開」において、TBL学習を取り入れグループ活動を重視する。グループ間で課題を見出しグループでシミュレーションを活用した学習を工夫し、コミュニケーション力を育みチームで働く力を育成するとともに、判断力・表現力を高める工夫をする。ポートフォリオでは自己のプロセスを振り返り、ピア評価では定量評価も取り入れ客観的に他者を理解する能力を身につけ、自己理解と自己肯定感に繋げる。発信力を育成するために、グループやクラスで行動できる指導の工夫と公開授業を実施し、地域の方にも見学して頂きアンケートを実施。平成29年度は、1年目に検証した内容に基づき、改善・工夫を加える。昨年頂いたアンケートの御意見をもとに地域に赴き公開授業実施。研究全体をとおして研究のねらいが達成できたか、今後の課題は何かを明確にする。		

3 研究体制等



4 研究計画

	実施時期	研究内容, 研究方法, 成果の公開等	期待される成果等
一 年 次	平成 28 年 前半	1 研究体制を整える。 ① 研究グループの役割を確認する。 ② 研究の取組の詳細計画を立案する。 ③ 専門家による助言をうける。 ④ 協働学習の研修会に参加し、研修報告を受け学びを共有する。 ⑤ TBL学習の学習会を実施し、教員間の共通理解を徹底する。 ⑥ 地域連絡協議会及び関係者との協議。	研究に関わる教員間の共通理解事項を徹底する。
	平成 28 年 後半	2 研究授業・公開授業を実施し、取組について、検証・評価し、今後の課題を明確にする。 ① 改善工夫した協働学習法を活用した授業を実施する。 ② ピア評価（定量評価）の実施。 ③ 研究協議、生徒や参観者へのアンケートを実施する。 ④ 検証・評価をまとめ、改善点を明確にする。	生徒の主体性を育成し、知識の統合を図り問題解決能力を養うための協働学習法を取り入れた授業の工夫を明確にする。 取組について検証し、改善を明確にする。
二 年 次	平成 29 年 前半	1 研究体制を整える。 ①研究グループの役割を確認する。 ②研究の取組の詳細計画を立案する。 ③専門家による助言をうける。 ④研修会に参加し、研修報告を受け学びを共有する。 ⑤地域連絡協議会及び関係者との協議。	研究に関わる教員間の共通理解事項を徹底する。 生徒の主体性を育成し、知識の統合を図り問題解決能力を養うための協働学習法を取り入れた授業の工夫を明確にする。
	平成 29 年 後半	2 研究授業・公開授業を実施し、取組について、検証・評価し、今後の課題を明確にする。 ① 改善工夫した協働学習法を活用した授業を実施する。 ② ピア評価（定量評価）の実施 ③ 研究協議、生徒や参観者へのアンケートを実施する。 ④ 検証・評価をまとめ、改善点を明確にする。 3 本研究全体の成果をまとめる。 ① 研究目的が達成できたか、今後の課題を明確にする。 ② 研究集録を作成する。	取組について検証し、改善点を明確にする。 2年間の取組の成果についてまとめ、協働学習法の効果的な活用について、今後の課題を明確にする。 研究の成果を公開する。

5 研究のまとめの見通し

「看護の統合と実践」の看護の実践において、体験や実践的な協働学習の工夫をはかり、生徒の思考力・判断力・表現力を高め、ピア評価を行う事でチームで働く力の育成をはかる。研究の成果は、研究集録を作成し、和歌山県産業教育振興会において報告し還元する。